**第11課　Ⅰ歴代誌の系図　2018.3.18**

◎ 賛美(一同) : 韓日 188番(聖歌248番)、韓日313番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : Ⅰ歴代誌1章 1∼4節、Ⅰ歴代誌9章1節

◎ 本文朗読

◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

歴代誌は、通読するのにとても難しい聖書です。サムエル記や列王記の内容が繰り返されているということも一つの理由です。しかしそれよりも大きな理由は、1章から9章まで続けて書かれている系図です。よくわからない人の名前を読んでいくのはとても難しい事です。しかし、歴代誌にこのような詳細な系図が9章にもわたって書かれている事には、はっきりとした理由があります。今日は歴代誌に記録された、長い系図の意味について考えてみたいと思います。

**1. アダムから始まる系図**

新約聖書にはイエス様の系図が二度出てきます。マタイの福音書に書かれている系図は、アブラハムから始まり、ルカの福音書に書かれている系図はアダムから始まります。アブラハムはユダヤ人たちの信仰の先祖として、ユダヤ人を代表する人物です。その反面、アダムは人種と宗教を超越した全人類の先祖です。歴代誌の系図は、ルカの福音書のように、アダムから始まる系図です。すなわち、歴代誌はユダヤ人だけのための聖書ではなく、全ての民族と国民に伝えるメッセージが込められた本であると見ることが出来ます。

歴代誌の主なる内容はユダヤ人の歴史です。しかし、歴代誌は単純に歴史的な事実ではなく、神様が彼らの歴史をどのように導かれたのかを見せている聖書であります。そして、アダムから始まる歴代誌は、神様がユダヤ人たちの歴史だけを主管される方ではなく、全世界の国民を主管しておられるということを私たちに知らせています。

神様は信じる者の神様であるのと同時に、信じない人々にとっても神様であられます。神様の救いの計画は教会の中にのみ留まっているのではありません。神様は全ての民族の救いを望まれ計画されています。

神様はユダヤ人の系図を通して、イエス様をこの地に送られました。そしてイエス様を通した救いの歴史はユダヤ人から全世界へと流れ行きました。私たちもその恵みの恩恵を受ける者として神様の救いの計画に参加しなくてはいけません。

**2. 名前が私たちに与える意味**

歴代誌1章は、内容がほとんどありません。何の説明もなく、名前だけが記録されている場合が多く、人物についての説明がとても少ないです。なぜ歴代誌にはこのような系図が記録されているのでしょうか。

今は神様を信じる全ての人々が歴代誌を読んでいますが、初めて歴代誌が記録された時、歴代誌の読者たちはユダヤ人たちでした。彼らは自分たちの直接的な先祖であるアブラハムの名前を読みながら、アブラハムがどのように神様に従順し、そしてどのような祝福を受けたのかを考えたことでしょう。また、ヤコブという名前を読みながら、彼がどのように神様に出会い、どのようにイスラエルという名を受けたのかを黙想したでしょう。

ユダヤ人が長い捕虜の期間を過ごし、国を失い2500年を迷いながらも、民族のアイデンティティを失うことなく、再び国を建てることが出来たのは、このように多くの信仰の先人たちがいたからであります。私たちにも信仰の先祖がいます。我が国はキリスト教の歴史は浅くとも、多くの迫害に打ち勝ち信仰を守った、誇らしい先祖たちがたくさんおられます。彼らの信仰の献身によって、この国に信仰が深く根差すようになったのです。

私たちは私たちが受けた信仰の名前を、私たちの子孫に受け継がせる義務があります。私たちの子供たちに、真実な信仰が思い起こされる父の名前、母の名前を受け継がせましょう。家庭、また教会で、名前だけ聞いてもイエス様を思い起こす誇らしい名前を受け継がせる私たち全てとなることを願います。

**3. 変わらない約束**

イスラエルの人々は、自分たちが神様の特別な選択を受けた民族であるという自負心を持っていました。そしてイスラエルを永遠に守られるという神様の約束を固く掴みました。しかしBC586年南ユダがバビロンに滅ぼされるやいなや、人々は大きな混乱に陥りました。神様の選択を受けた民族が滅び、他国の捕虜として捕らえられていきました。神様の約束が破られたかのようでした。ユダヤ人たちは、それまで彼らが信じていた信仰が崩れていく経験をしました。このような背景の中で捕虜期を生きる中で、神様の約束に対する疑いを抱いていたユダヤ人たちに答えを与えるために記録された聖書がまさに歴代誌です。歴代誌1章から9章にわたる膨大な分量の名前たちは、捕虜期のユダヤ人たちを、ダビデを経てアブラハムに、そしてアダムにまでつなげてくれています。

歴代誌の系図は、神様の約束が取り消しになったのではないという事実を、捕虜期のユダヤ人たちに知らせているのです。そして彼らが今国を失ったことは、神様が彼らを捨てたのではなく、彼らが神様に不従順したゆえであることを悟らせているのです。

それゆえ、歴代誌の系図は、絶望の中を生きているユダヤ人たちに希望を与えました。この系図は、今は自分たちの不従順によって懲戒を受けているけれど、神様は変わらずに彼らの先祖と結ばれた約束をお忘れになっておられないという事を見せている証拠でした。

私たちに苦難の時間が来るとき、神様がおられないかのように感じる時、聖書を開いて、信仰の先祖たちに約束された神様の御言葉を読んでみてください。アブラハムに下さったその約束、ダビデに下さった祝福は、今、イエスキリストを信じる信仰を通して、私たちに続いているのです。へブル9章15節は“こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。”と語っています。神様の約束を掴んでください。

私たちは倒れても、神様の約束は永遠に変わることがありません。イエスキリストの中で、神様の約束された祝福を享受されることをお祈りします。

**◎ マナの要約**

<アダムから始まる系図>

1. 歴代誌の系図はユダヤ人の先祖であるアブラハムを超え、アダムから始まります。

2. 神様は信じる者だけの神様ではなく、全世界を主管される神様です。

<名前が私たちに与える意味>

1. 信仰の偉人たちは、その名前だけでユダヤ人たちに信仰の教えを与えました。

2. 私たちの子供たちに、誇らしい信仰の名前を継承させましょう。

<変わらない約束>

1. イスラエルは罪によって裁きを受け、国が滅びましたが、神様は変わらずに約束を覚えておられました。

2. どのような苦難、問題の中でも、変わらない神様の約束を固く握りましょう。

**◎ 私の人生のマナ**

<隣の人と挨拶>

1. 神様は全世界の神様です。

2. 信仰の遺産を残しましょう。

3. 神様の約束を覚えましょう。

<祈り>

1. 全世界に神様の国が臨み、まことの平和がなされますように祈りましょう。

2. 親として、子供たちに感動を与えることが出来る信仰を下さいと祈りましょう。

3. 信仰に疑いをもたらす問題を解決してくださいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>

隣の人と祈りの課題を分かち合い共に祈りましょう。